

＜全体分析＞

試験時間 90 分

解答形式
I～Vはすべてマーク式で、VIとVIIは記述式
分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）
※ここ5年の長文2題の総語数は、「1,959→1,883→1,953→2,008→1,783」で推移している。
出題の特徴や昨年との変更点
・READING/GRAMMAR SECTION は4題から5題になり、WRITING SECTION は2題（うち1題は小問が2つ）という大問構成であった。
・WRITING SECTION では、2025年度のメールを完成させるもの（大問V）から2つの小問で示された主張における論理の誤りを説明するもの（大問VI）に変わった。なお、最後の大問は、2019年度以降6年連続して、「絵」を用いた形式の自由英作文が出題されていたが、2025年度に「地図とグラフ」を用いた形式に変わり、2026年度は指示文があるだけの意見論述型の形式に変わった。
・表から読み取れる内容を要約した文を完成させる形式の空所補充問題が出題された。
その他トピックス
・大問IIで、2024年度は法学部の定番といえる「パラグラフの要旨選択」が復活したが、2025年度では再び姿を消し、2026年度も出題がなかった。「発音・アクセント」は引き続き出題された。
・大問IIIの正誤判定問題では、2025年度に1問だけALL CORRECTが正解となる問題が出題されたものの、2023年度・2024年度と同様、2026年度もALL CORRECTが正解となる設問はなかった。

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	読解総合	「言語とアイデンティティ」 (1,034words)	内容不一致、同意表現選択、要約 設問（1）のテーマを絞った内容不一致は本学部の定番といえる。	標準
II	読解総合	「ハンセン病患者への偏見の歴史」 (749words)	内容不一致、内容一致、空所補充、同意表現選択、発音・アクセント（強勢のある母音の識別） （2）は本文から推論できるものを選ぶタイプの内容一致。	標準
III	文法・語法	正誤判定	下線を引いた4か所のうち、文法的に正しくないもの（誤りがなければALL CORRECT）を選ぶ。	やや易
IV	その他	空所補充	170語程度の英文中の空所補充。内容はわかりやすく、解きやすい。	やや易
V	その他	空所補充	130語程度の英文中の空所補充。表から読み取れる内容を要約した文を完成させる問題。	やや易
VI	自由英作文	論理の誤りを説明する文を書く	与えられた2つの主張に関する論理の誤りを説明するにあたって、数や特定の例を用いるように指示されている。	標準
VII	自由英作文	大学生としてボランティア活動に参加するのなら何をしたいかを書く	与えられた指示文にしたがって、少なくとも2つの理由を挙げ、考えを「1つのパラグラフ」にまとめるように指示されている。解答欄のスペースから判断して、90語程度で書くことになる。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」  
難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

- ・長文問題では、内容一致型の設問が数多く出題されるので、日頃から本文と選択肢を照らし合わせながら読み進めていく訓練が必要となる。また、語彙に関しては、できれば受験レベル以上のものにも手を広げておくといだろう。
- ・物語文が出題されることもある。与えられた選択肢を手がかりにして本文の大まかな流れをつかみ、設問を解くことに主眼を置きながら粘り強く読み進めていくことが重要となる。なお、物語文を題材にした設問を練習するには、法学部の過去問に加え、国際教養学部 of 過去問も利用するとよい。
- ・文法に関しては、過去問などを利用し、標準レベルの問題を中心に演習しておけば対応できる。
- ・自由英作文では、構文や表現を確実に身につけておくとともに、適切な接続詞や関係詞などを用いて文を構成する訓練が必要である。グラフや絵・写真といった視覚情報から読み取れる内容を記述する問題への対策も十分に行っておくこと。